

4-1-6-3 脳神経外科

1. 概要

1.1 国立成育医療センター脳神経外科の活動と特色

脳神経外科は国立成育医療センター設立と同時に新設された科である。今年度が2年目でありこれから歴史を積み重ね作り上げていく過程にある。国立成育医療センター脳神経外科の役割として、小児脳神経外科のエキスパートとして小児脳神経外科疾患一般に取り組むと同時に胎児外科、妊婦の脳神経疾患にも特殊診療部、周産期診療部とともに取り組んできた。又、ナショナルセンターという性格からこれからの小児神経外科を担う人材の教育も欠かせないものであり、小児神経外科を希望する若手脳神経外科医に出身・所属と関係なく研修できる環境を提供したいと考えている。

脳神経外科の活動方針として臨床第1の方針を堅持しつつ、積極的に学会活動、臨床研究・症例報告を中心とした学術活動も行っている。手術にあたっては術中神経生理学的手技を駆使し、手術時の神経機能温存に努めている。脳腫瘍、脊椎・脊髄病変の手術では術中神経生理学的手技は必須のものであり、年間の手術症例の約1/3に施行している。その他にも水頭症における神経内視鏡手術、脳深部病変手術時の神経ナビゲーション装置の利用など最先端の医療を積極的に取り入れ侵襲の少ない安全な手術を目指している。又、小児における機能的疾患には設立時より取り組み、脳性麻痺小児を中心とする痙縮に対する機能的脊髄後根切断術は全国的にも注目されている。

手術症例の特徴については、一言でいえば各分野の手術をこなしていること、および年少児の割合が高いことにある。後者に関しては、生後1ヵ月以内の新生児手術が23件、生後1才未満の手術が63件であり、合わせると全体の手術件数のほぼ半数にのぼる。逆にいえば、一般の病院では麻酔の関係などで手術が難しい乳幼児が集まってくるわけであり、この年代の手術を合併症なくいかに結果を出していくかに国立成育医療センター脳神経外科の真価が問われることになると受け止めている。

1.2 診療体制

脳神経外科の診療は医長1、研修医2の3名で手術・病棟・外来をこなしている。手術は月曜、水曜を中心に必要に応じて金曜日も行っている。緊急手術に関しては麻酔科、手術室の協力の元に随時可能な状態である。外来は火曜、木曜であるが1回の受診患者数が増加しており今後外来枠を増やすことも検討している。

2. 診療及び研究活動

2.1 2003年度手術症例

脳神経外科における2003年4月から2004年3月までの総手術件数は185件であった。各手術手技の詳細を以下に示す。

水頭症	61	
VP/SP シヤント（新設）		27
VP/SP シヤント（再建）		9
神経内視鏡手術		12
その他		13
先天奇形	50	
二分頭蓋		10
脊髄髄膜瘤		3

脊髄脂肪腫（脂肪脊髄髄膜瘤など含む）	11
脊髄係留	1
頭蓋骨縫合早期癒合症	7
くも膜嚢胞	5
頭蓋頸椎移行部病変	7
その他	6
機能的疾患	20
痙直型脳性麻痺 / 痙縮	
機能的脊髄後根切断術	18
バクロフェンポンプ埋込み術	1
てんかん 全脳梁離断術	1
腫瘍	18
脳腫瘍	
テント上	11
テント下	3
脊髄腫瘍	3
頭蓋骨腫瘍	1
血管障害	15
もやもや病	7
脳動静脈奇形	2
頭蓋内 / 脳室内出血	6
外傷	11
急性硬膜下 / 硬膜外血腫	2
硬膜下血腫 / 硬膜下液貯留	2
頭蓋骨骨折（陥没骨折など）	3
脊椎・脊髄損傷	4
その他	10
総計	185

3. 研修会・講演会

3.1 研修会

臨床小児神経外科懇話会 約3ヵ月毎に開催

日本水頭症協会勉強会 水頭症治療を理解しよう -水頭症の外科治療-(3/14:成育医療センター講堂)

3.2 講演会

2003年7月4日 Mild trigonocephalus の治療 . 沖縄県立那覇病院 副院長(脳神経外科) 下地武義

2004年3月24日 Intraoperative neurophysiology. Vedran Deletis, M.D. Beth Israel Medical Center, NY